

## 大倉川の氾濫原で確認されたユビソヤナギの生育状況

加藤沙織 1\*・根本秀一 1・黒沢高秀 2 (1 福島大・院・理工, 2 福島大・理工)

磐梯吾妻地域に位置する長瀬川の大倉川および小倉川には、礫河原特有のヤナギ科ヤナギ属のユビソヤナギ *Salix hukaoana* Kimura が生育することが報告されていた(指村ほか 2010)。砂防工事で攪乱された跡地に直径 5 cm から 20 cm 程度の若い個体が高密度で生育していたこと、優占度が 80% から 90% と高かったことが記されていたが、分布範囲などは明らかにされていなかった。2015 年 4 月～5 月に現地を調査し、より詳細な生育状況を確認したので報告する。

ユビソヤナギは枝や根にある樹皮の内面が黄色く、若い葉の縁が先端を除いて裏側に巻かれる(木村 1989)、葉の縁は不規則な波状鋸歯を有し、雄花が持つ 2 本の花糸は、合着して 1 本に見える(木村 1989, 米倉 2015) 等の特徴を持つ(図 1)。ユビソヤナギの生育地は 1973 年に初めて発見された群馬県水上町湯檜曾の湯檜曾川沿い(木村 1989, 米倉 2015) 以外に、秋田県の雄物川水系(菊池・鈴木 2010)、岩手県の北上川水系(竹原 1995) および雫石川水系(指村ほか 2010)、山形県の荒川水系、最上川水系(菊池・鈴木 2010) および赤川水系(指村ほか 2010)、宮城県の鳴瀬川水系および北上川水系(竹原・内藤 1986)、新潟県の阿賀野川水系(指村ほか 2010)、福島県の阿賀野川水系(鈴木・菊池 2006, 指村ほか 2010) とされていた。特に、福島県の阿賀野川水系では只見町の伊南川流域(鈴木・菊池 2006) が良く知られており、加藤谷川、長沢および長瀬川(指村ほか 2010) でも確認されていた。生育環境が特殊で、自生地が少なく、生育環境も河川開発で失われていることから、環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧 II 類に指定されている(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 2015)。

大倉川は吾妻山に源を發し、秋元湖へ注ぐ、阿賀野川水系の長瀬川の支流である。平均河床勾配 30 分の 1 の急流河川で、平成元年には死者を伴う大きな氾濫があった。ユビソヤナギは、大倉川を横切る県道の大倉川 2 号橋より上流に、少なくとも 3.5 km の広範囲にわたって、他のヤナギ属とともに林を形成していた。北緯は 37 度 38 分 57 秒～40 分 09 秒、東経は 140 度 10 分 26 秒～11 分 38 秒、標高は 760～890 m の範囲であった。上流では、樹高 15 m 以上のユビソヤナギがオノエヤナギとともに林を形成していた。下流では、2～3 m のユビソヤナギが、平成元(1989)年度の災害関連緊急砂防事業および平成 2(1990)～25(2013)年度の大倉川火山砂防事業で整備された礫河原に多数生育していた。指村ほか(2010)が報告したのは下流側と思われる。この付近では、カワラニガナ、カワラハハコ、オオバヤナギなどの礫河原に生育する植物も豊富に見られた(図 2)。大倉川の急流と礫河原は、これまであまり注目されてこなかったが、特異な景観とユビソヤナギのような特殊な環境に生育する希少な植物の存在から、磐梯吾妻地域を特色づける特徴的な自然の 1 つと言えらると思われる。

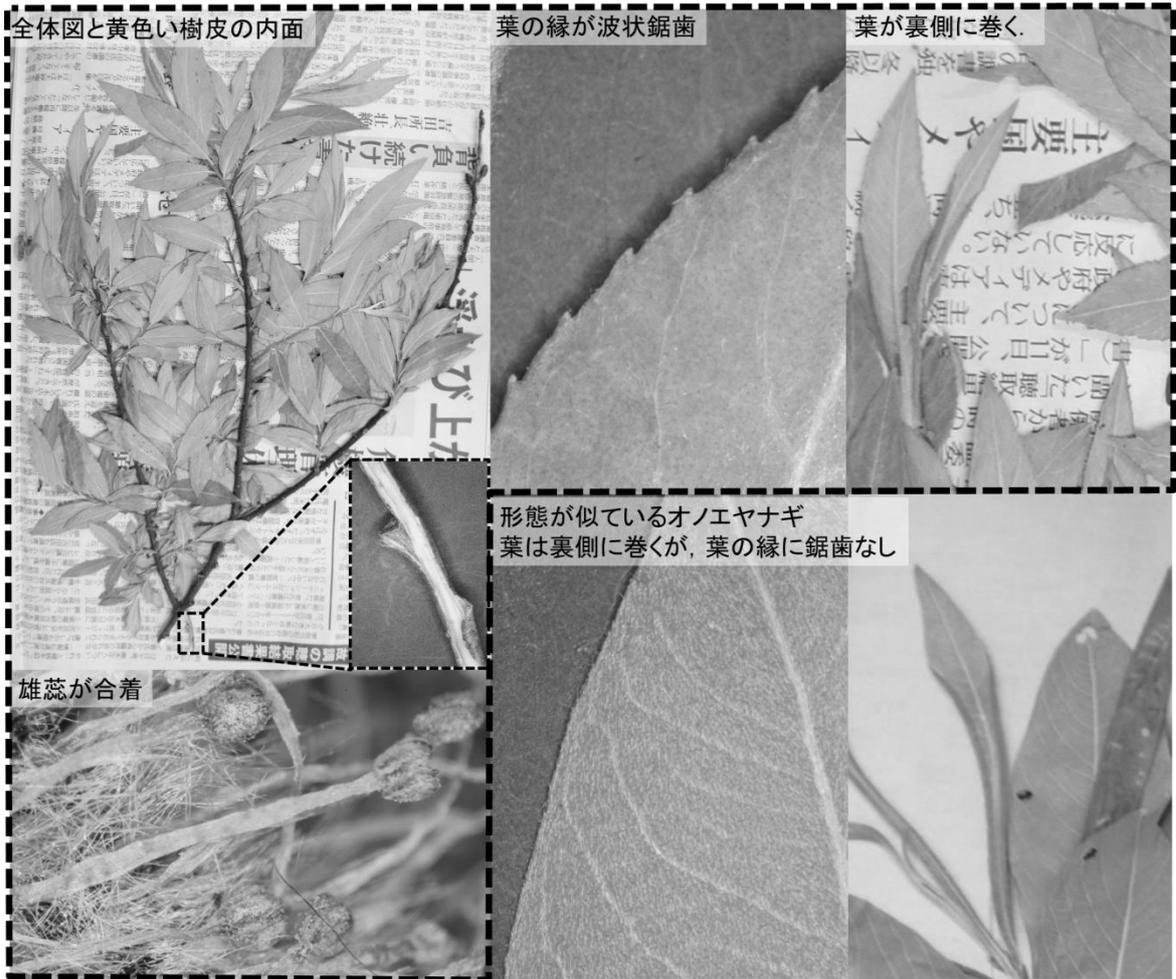


図1. 磐梯吾妻地域の大倉川に生育するユビソヤナギ.

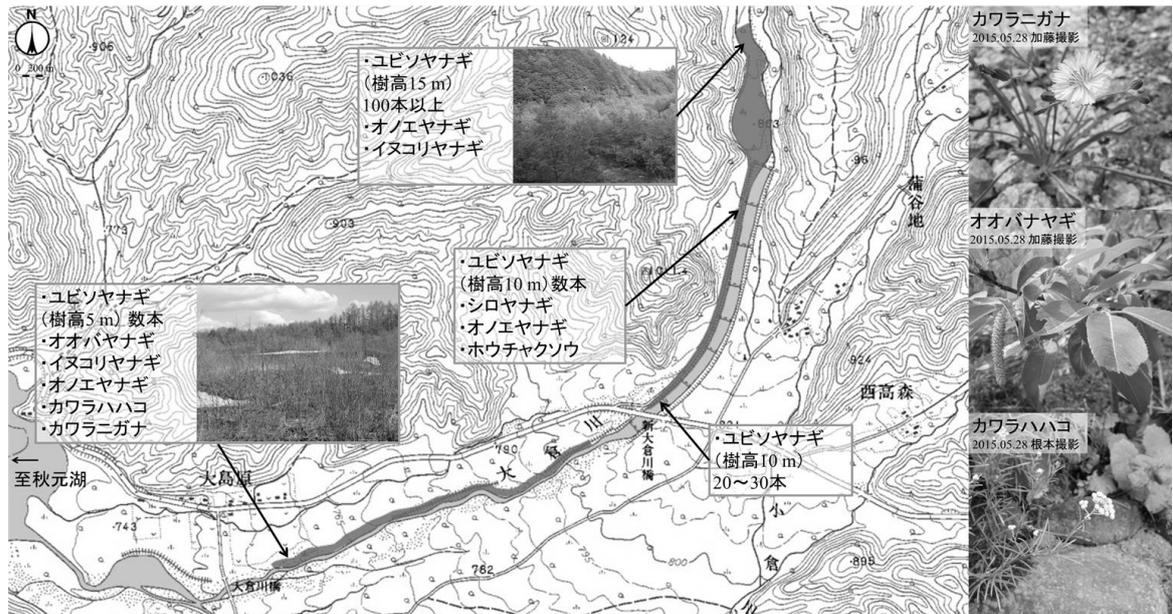


図2. 磐梯吾妻地域の大倉川におけるユビソヤナギの分布および周辺に生育していた植物.